

秋のラン展 テーマ展示の記録

上野明楽・磯部実

2024年10月26日(土)から11月4日(月)まで開催された「秋のラン展」の概要について報告する。

展示概要 テーマ

「秋の洋ラン展」は、毎年10月末から11月初旬にかけて、広島洋蘭倶楽部と日本・蘭協会西中国支部に協力を依頼し、開催している展示会である。従来は約100点の出品があったが、会員の高齢化に伴う出品者数の減少に加えて、夏の酷暑が響き、この2,3年は半数程度の出品となっている。この流れはあまり変わらないことが予想されるため、園が保有している株を用いたテーマ展示に力を入れている。その中でも昨年度よりラン科植物の花以外の魅力的な部分に注目し、来園者にランを楽しんでもらおうという取り組みを進めている。今年度は「ランのここが面白い!」をテーマにして、ランの花や生態について説明するとともに、趣味としてのランの楽しみ方を加えて展示を行った。

展示の意図

ラン科植物の種類が多く、花の変化に富んでいる点や、受粉のため虫を騙す工夫が優れている点、種子が小さく発芽に菌の手助けが必要な点の3つに焦点を当て、一般的には知ることがないランの生態的な魅力に気付いてもらうことを目的とした展示を行った。

ランの花の代表種であるカトレヤなどを一般的な花と比較し、ラン特有の器官である蕊柱(ずいちゅう)など、ランにあって一般的な花にない部分を写真で説明した。

各展示の説明

1. カトレヤ属

秋咲きカトレヤに注目して展示を行った。(写真1)。グアテマラなど中米原産の旧カトレヤ属のグアリアンセ ボウリングアナ(*Guarianthe bowlingiana*)を中心に南米原産のカトレヤ ラビアタ種(*Cattleya labiate*) マキシマ種、(*C. maxima*) ピグマエア種(*C. pygmaea*)を

並べて展示した。カトレヤの中でも株、花ともに最小であるピグマエア種が展示出来たことで、カトレヤの中でも大小様々な大きさの花があることを知ってもらうことができた。

2. レリア属

カトレヤ属に近縁で、花茎が長く伸びるレリア属は、見た目のインパクトがある。今回はコロンビア、エクアドルに分布するスプレディダ種(*Laelia splendida*)を1株展示した。

3. 変わったランの展示

見た目の不思議なランを数種類並べて展示した。とても小さい花をしているものもあるので、合わせて虫眼鏡を用意して来園者に楽しんでもらう工夫をした。太陽光で照らすとラメ状の光沢があるエクアドル原産のトリセテラ属(*Trisetella hoeijeri*)、日本にも分布しているとても小さい花を連ねて咲くニューギニア原産のオベロニア属(*Oberonia drepanophylla*)、虫のような造形の花を咲かせるコロンビア原産のレストレピア属(*Restrepia cuprea*)、下垂して開花する南米原産のスタンホペア属(*Stanhopea graveolens*)とケゲリエラ属(*Kegeliella atropilosa*)の2種類、とても小さい花を咲かせる南米原産のプラティステレ属(*Platystele oxyglossa*)、唇弁が特徴的な南米原産のシャウバルディア属(*Chaubardia heteroclota*) 赤い花を密に咲かせるニューギニア原産のエピブラスツス属(*Epiblastus basalis*)など、展示会でも出品されることが少ない種類に注目して展示した。(写真2)。

4. ランの花の構造と特徴の紹介

ラン亜科、アツモリソウ亜科、ヤクシマラン亜科のそれぞれの花を紹介し、写真を用いて蕊柱や花粉塊など花を分解しないとわからないものを写真で説明した。ラン亜科、アツモリソウ亜科は実物を展示し、ヤクシマラン亜科については当園で保有していないため筑波実験植物園より写真を借用した。

また、実際に着生して生育するランの根の構造や種子の拡大した写真の説明や、光合成をせず菌類に依存して生育する菌従属栄養のランも説明した。

5. 自生地の再現

植物に着生する種と地面で生育する種に分けて展示を行った。植物に着生する様子を再現するために、実際に木に張り付けて栽培している太い根が特徴的なバンダ属 (*Vanda bensonii*) や偽球茎が黄色くなりバナナのように見えるミルメコフィラ属 (*Myrmecophilla tibicinis*) などを吊るして展示した。

エビネ (*Calanthe discolor*) やサギソウ (*Pecteilis radiata*) など県内外の自生地の写真も併せて展示した。(写真3)。

所感

昨年度と同様にラン科植物の花を含めた植物としてどこがおもしろいのかを展示することで、来園者により深い内容でラン科植物に触れてもらう機会を作ることができた。ラン科植物をはじめ、植物を学ぶ場所としての広島市植物公園を盛り上げていくためにも、より一層ラン科植物の魅力を発信していく必要があると感じた。これからも来園者に興味を持ってもらえるような展示の工夫を続けていく。

謝辞

この度は筑波実験植物園の遊川知久様、鈴木和浩様にヤクシマラン亜科の貴重な写真を借用させていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。



写真1 カトレヤ属と花の構造の紹介



写真2 変わったランの展示と説明文



写真3 自生地の再現と自生地写真